

令和元年 11 月 26 日

令和元年度第 4 回世界農業遺産等専門家会議  
石川県能登地域における更なる保全・活用に向けた助言

- 1 能登地域は、認定面積が広く、多くの資源が含まれていることから、取組の焦点を絞りにくいという大きな課題がある。一方で、能登地域で行われている多様な農林水産業の生産活動は、例えば、自然災害等による農業への影響を林業・水産業で補うなど、地域全体のリスク回避に繋がっているとも考えられる。様々な活動の効果や地域内で多様性が確保できていることの強みを活かしてストーリー性を持たせることを検討していただきたい。
- 2 様々な取組が行われているが、能登地域の本質的な価値や核となる理念を見極める必要がある。里山・里海の豊かな食文化、地域通貨も含めた資源を循環させる取組、多様な生産活動によるリスク管理など、個々の取組を繋げるような、システムの基本コンセプトについて検討されたい。また、検討に当たっては、能登地域における里山の集落景観等の資源の詳細な位置やその量を地図上で整理するような現状分析を行い、能登地域特有のメカニズムや特徴を具体的に解明することが重要である。その上で、取組事項を重点化するとともに優先順位をつけ、工程表を作成する等、5年間の計画期間ですべき内容を明確にされたい。
- 3 GIAHS 推進協議会の事務局を各市町の持ち回りで行うことは、順番に当事者意識を持つことに繋がるが、担当以外に当事者意識が不足することや各市町の個性が発揮しにくいなどの課題がある。また、自治体を中心とした取組では、担当者の異動により継続性の担保が難しい傾向にあるため、行政だけではなく、民間事業者や大学の研究者を含めた様々な活動主体と連携し、今後の取組について議論を行うとともに、モニタリングの場にも出席いただけるような関係性を築いていただきたい。なお、良好な関係性の構築に資するため、次期保全計画の策定に当たっては、民間を交えた他の認定地域との交流や、GIAHS の価値を改めて認識するための勉強会の実施を提案する。
- 4 里山振興や農業参入支援を目的としたファンドが整備されている点は、能登地域の特有の取組として評価できるが、システムの基本コンセプトと繋がる意味付けや説明がなされるとなお良い。また、そのファンドを協議会の取組にも活用できるようにするなど、農業遺産に活用可能な資金調達の方法を検討されたい。

- 5 生物多様性の継続的な調査のために、他の認定地域では、農産物の認証制度の要件として農業者に調査への参画を促すような調査手法を設計し、別の認定地域に横展開している事例がある。このような事例も参考に、現在行われている認証制度の要件に、農業者等の生物多様性調査への参画を盛り込む等、生物多様性調査の継続性を担保するための手法についても検討いただきたい。
  
- 6 耕作放棄地の解消が進んでいる点は良いことであるが、申請書に最大の課題として挙げられている「人口及び農林水産業の就業人口の減少」についても検証していただきたい。
  
- 7 FAO で GIAHS が創設された背景には、短期的視野による工業的な農業生産が優先された結果、長期的は生態系の破壊や農業生産性の低下を招いたことへのアンチテーゼが存在している。このような経緯も踏まえ、市町が行う様々な施策の中でも、GIAHS は長期的視野で伝統的農業や文化等を保全し、大きな価値に繋がるとの認識のもと、短期的視野の施策との両立を図っていただきたい。  
令和3年には世界農業遺産認定から10周年の節目を迎えることから、この機会も活用しつつ、取組の一層の進展を目指し、関係者間での協議を行っていただきたい。

(以上)